

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	立命館大学OIC新展開施設設備事業	階数	地上9F
建設地	大阪府茨木市岩倉町1番1の一部、	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	3,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年5月9日
敷地面積	14,599 m ²	作成者	株式会社竹中工務店 永井 務
建築面積	7,743 m ²	確認日	2022年5月9日
延床面積	46,953 m ²	確認者	株式会社竹中工務店 永井 務



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 3.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超+</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 78%</p> <p>③上記+②以外の: 75%</p> <p>④上記+: 75%</p> <p>最終値: 46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.2</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生と教職員、学生同士のコミュニケーションを誘発する外・内部空間構成を創出し、多様なコミュニティにおける主体的な「気づき」による学びの展開を可能にする。 ●自然の豊かな環境を生かし、自然と共に生きる事を日常的に体験できる大学施設を実現する。 		<p>その他</p> <p>特に無し</p>
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各エリアの特徴毎に、きめ細かく遮音性能を設定し、各々が快適な空間となるよう配慮している。 ●自然環境を積極的に取り入れつつも、適度な環境コントロールを行い、快適な空間を実現する。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●階高は3.75m~5.4mと比較的ゆとりのある計画とし、天井高については、大教室は3m以上、一般教室や研究室は2.7m以上確保した。外壁には耐用年数の長い両面金属板張り断熱パネルを採用し、内装計画については模型やインテ 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●敷地周辺の生物環境に関する立地特性を把握し、その特性に基づいて敷地内の生物環境の保全と創出に係る計画方針を決定した。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外皮性能の向上によってPAL低減率を確保するだけでなく、トップライトやウィンドチュームーなど自然エネルギーの直接利用も積極的に採用している。 ●個別空調であるビル用マルチの採用 ●換気に全熱交換機の採用 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●節水型器具の使用、雑排水利用、リサイクル材・再生可能部材を積極的に採用し、資源に配慮した計画としている。 ●汚染物質含有材料の回避 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●敷地に対して、余裕を持って計画する事により、計画建物が敷地周辺に与える影響に配慮している。 ●ごみの分別化推進

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	立命館大学OIC新展開施設整備事業					
	建設地	大阪府茨木市岩倉町					
	用途/区分	学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					4	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.5	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない
その他			
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項	
特に配慮した事項			